

# 自動車業界を取り巻く環境変化と トヨタの取組み

## 第9回JIPA知財シンポジウム

2010年 3月2日  
トヨタ自動車(株)

常務役員

鈴木 茂樹

リーマンショック

環境保護(CO<sub>2</sub>削減)

市場の縮小  
売れない

大型車の不振(小型車シフト)  
儲からない

莫大な営業赤字

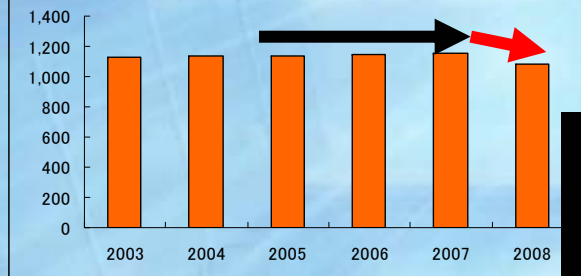
トヨタ 4600億円の営業赤字(2009年3月期)

クライスラー 連邦破産法第11条 適用(2009年5月)

GM 連邦破産法第11条 適用(2009年9月)

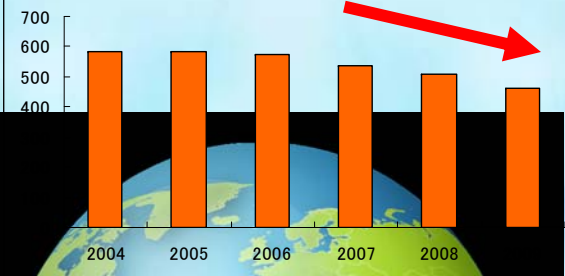
## 先進国市場

### 欧州4カ国

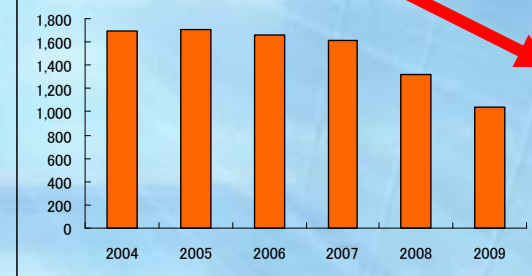


独、仏、英、伊

### 日本



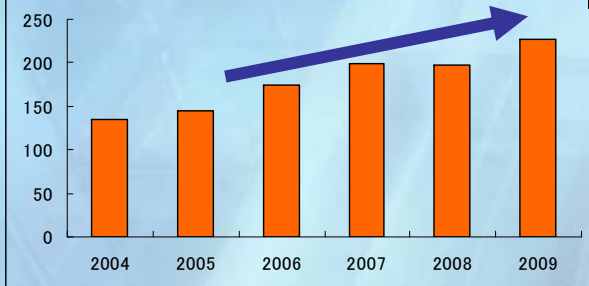
### 米国



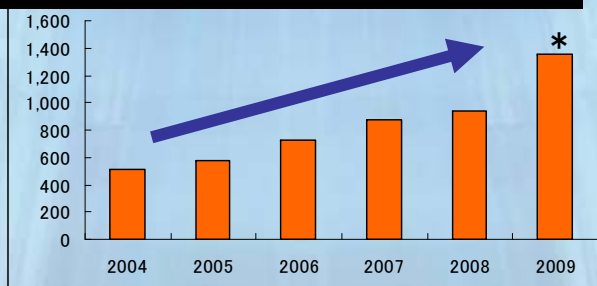
先進国から、新興国・資源国へ

## 新興国・資源国市場

### インド

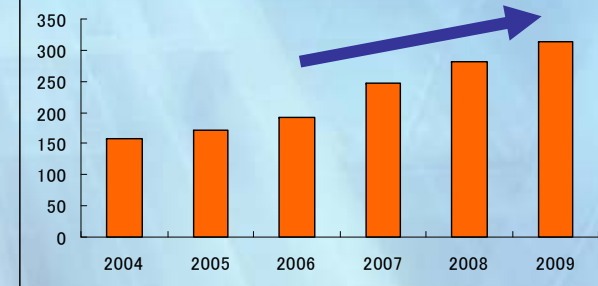


### 中国



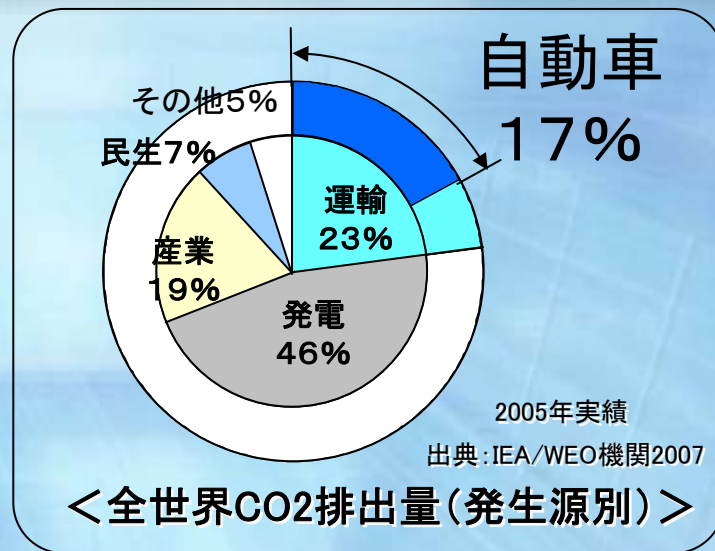
\* CAAM速報値

### ブラジル



- ◆ 20世紀におけるグローバルな産業・技術の発展
- ◆ 人口の増加(北米・アジアなど)
- ◆ 自動車の増加

化石燃料の消費急増



＜自動車における課題＞

大気汚染防止



CO2削減

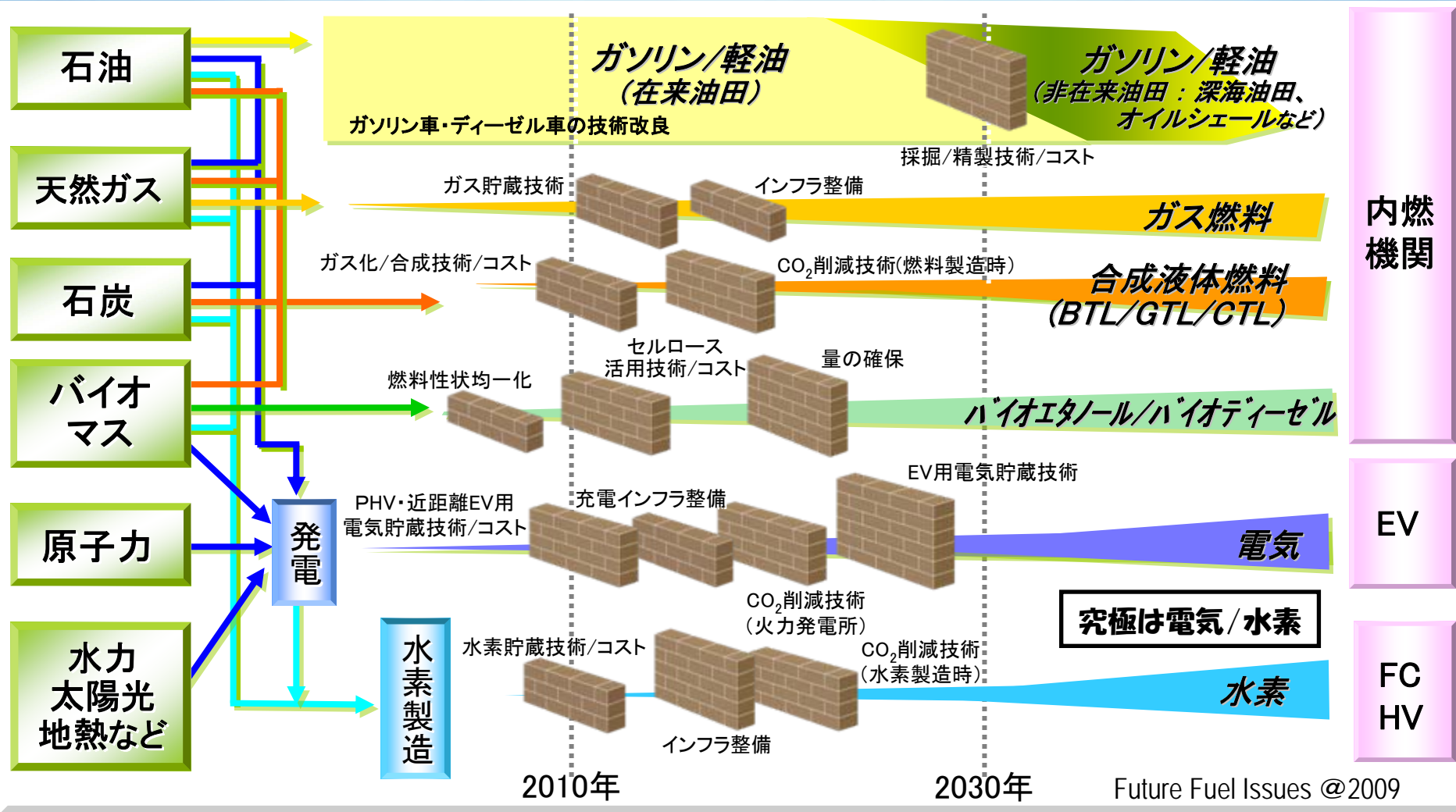


エネルギー多様化



交通安全





石油に替わる燃料はそれぞれに課題有り  
⇒しばらくは石油が主流、液体燃料と非液体燃料が共存する

新興国市場での優位性確保

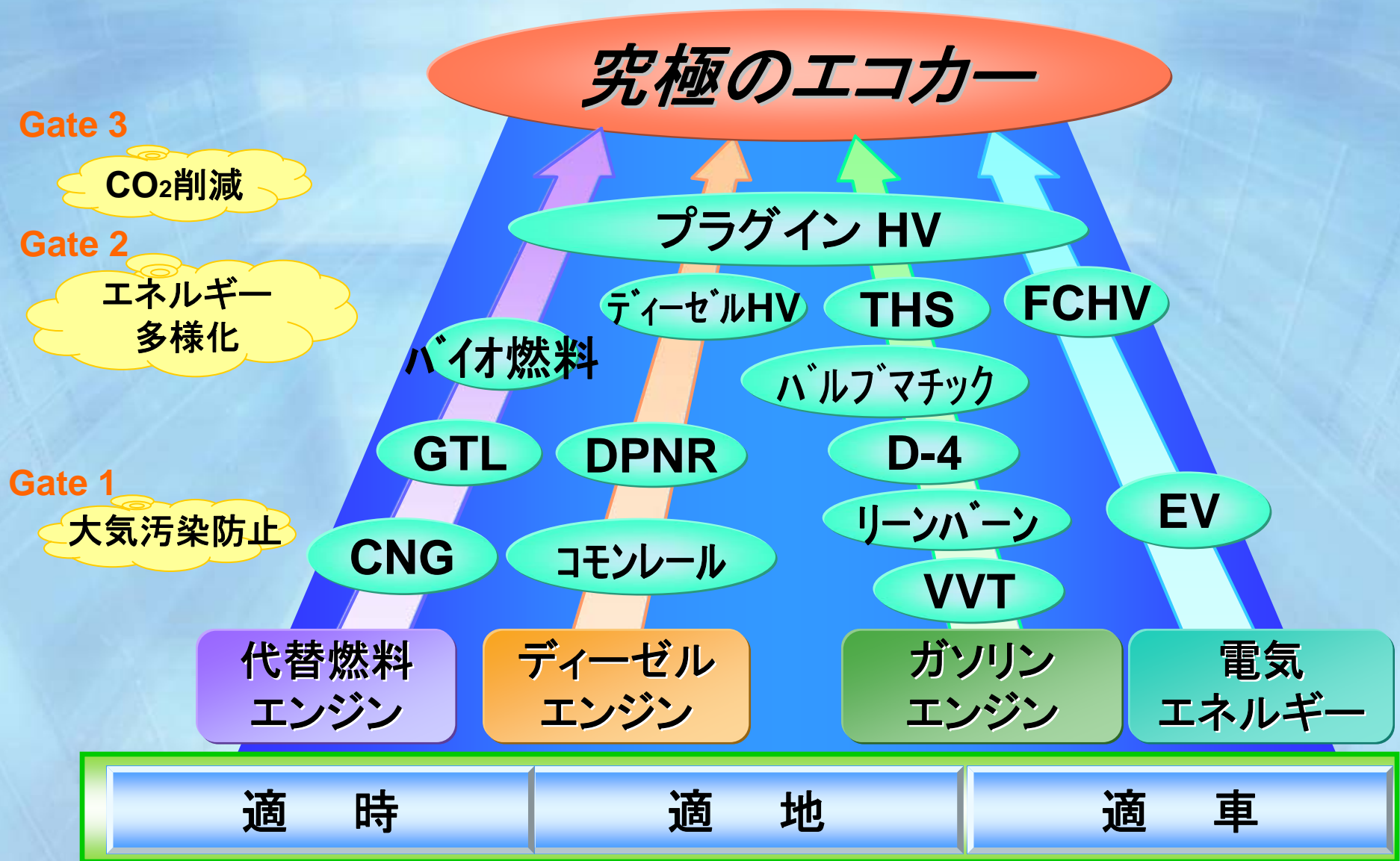
① 低コスト（良品・廉価）

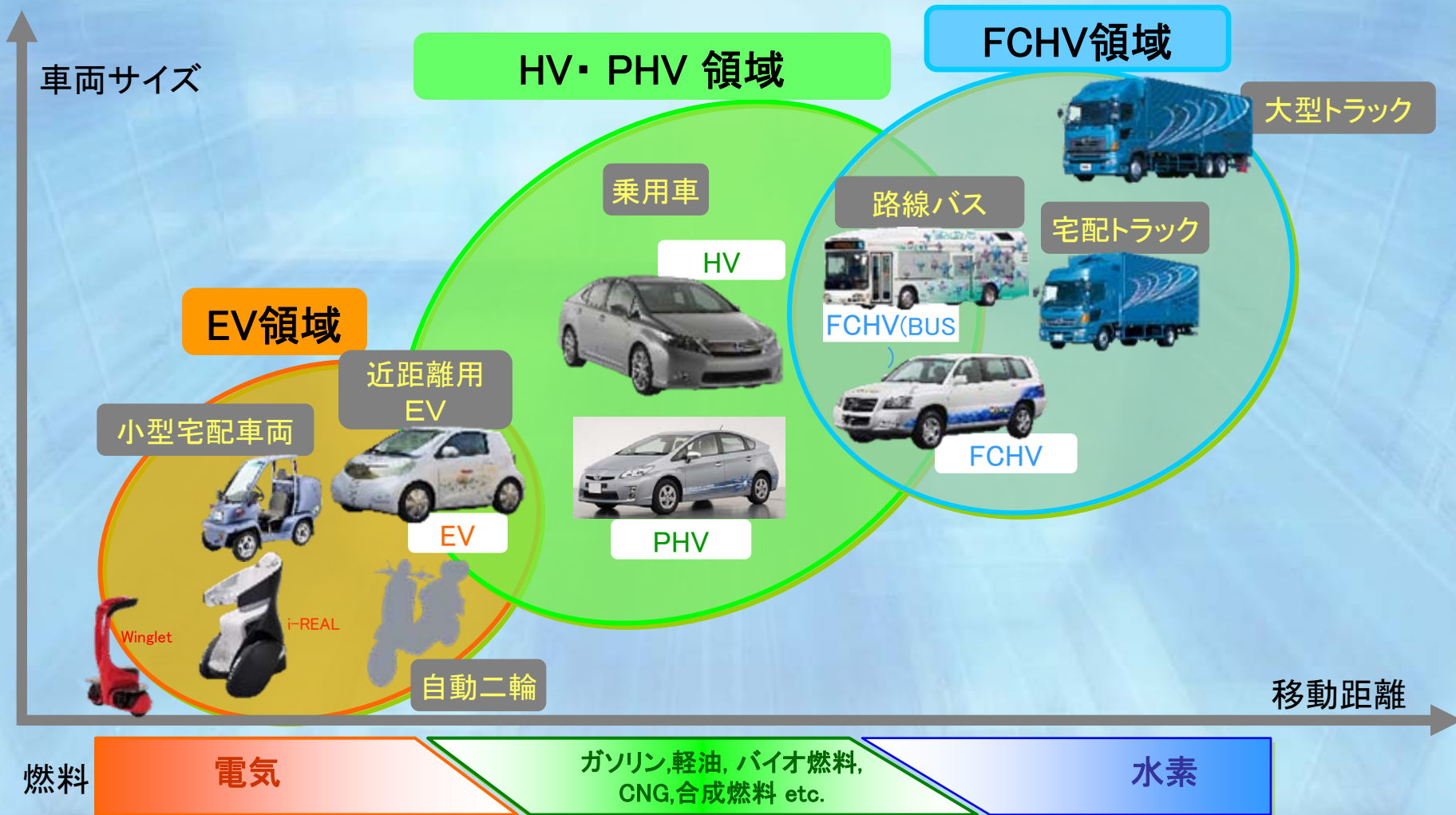
② CO2削減

③ エネルギーの多様化

サステイナブルモビリティ

# サステイナブルモビリティを目指したトヨタの取組み<sup>7/11</sup>





EV : 近距離用途、HV・PHV : 乗用車全般、FCHV : 中長距離用途



## 近距離用EV



'12年に導入

## PHV



'09年末

日・米・欧を中心に導入開始

近距離用途のEVと主軸となるPHVをあわせて  
電気利用の普及を目指す

## <航続距離>

大阪－東京間の長距離走行試験



830km(10-15モード)、  
ガソリン車並の実用航続距離を達成

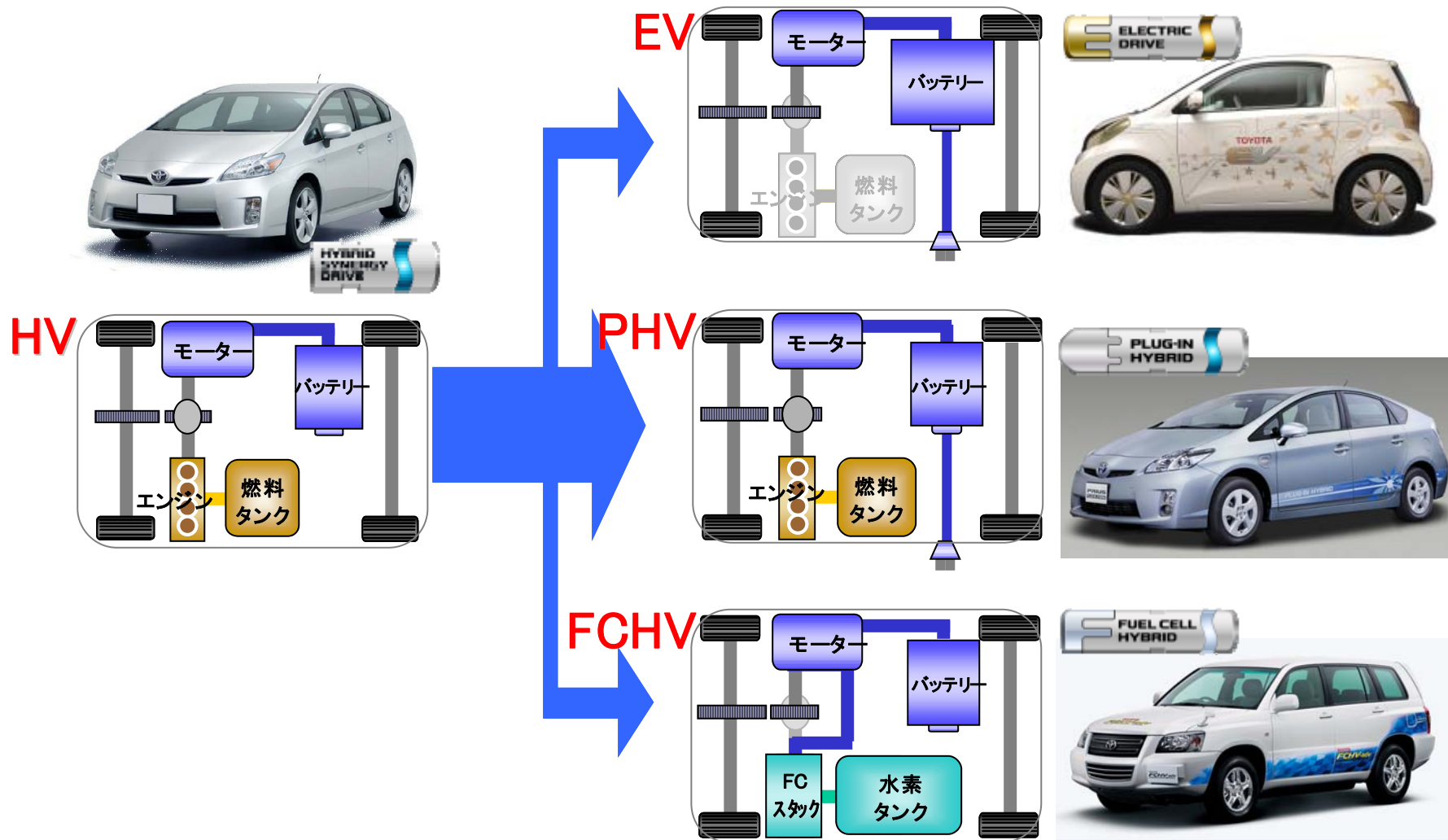
## <低温始動性能>

カナダ(Yellowknife)寒冷試験



-30°Cでの始動、走行が可能

- ・トヨタFCHV: 2015年頃からの市場導入を目指す
- ・水素供給インフラ整備など、普及に向けた技術開発以外の課題へも関係機関・企業と連携して取り組む



ハイブリッド技術はPHV、EV、FCHVの要素技術を含む、コア技術



***TODAY for TOMORROW***

TODAY for TOMORROW

**TOYOTA**